

「関西広域産業ビジョン（中間案）」概要

◎ 改訂のポイント

- **関西経済を取り巻く状況の変化を反映**
 - ・AIやIoTなどの技術革新による第四次産業革命、SDGs（持続可能な開発目標）の設定
 - ・人口減少に伴う労働力不足、好調なインバウンド、グローバル化の加速、頻発する自然災害
 - ・「2025日本万国博覧会」の開催決定
- **将来像・戦略の再編**
 - ・関西経済の持続的成長に向け、これまでの取組みの成果も踏まえ、2040年を見据えた将来像を再設定（現行の将来像：「日本とアジアの結節点となる」、「日本の成長を牽引する東西二極の一極を担う」、「地域の魅力を支える豊かな生活圏を形成する」）
 - **関西が一つの核となり、アジア、そして世界でも存在感を示し、日本の成長を牽引**
 - **多様な人々が引きつけられ、個性を発揮して活躍・共生している関西へ**
 - ・将来像の実現に向け、当面5年間を見据えて**戦略を重点化**
 - **幅広い分野でイノベーションが生まれる環境の創出**
 - **技術力強化、グローバル展開、IoT導入による生産性向上など、企業の成長を支援**
 - **関西の各地域が持つ個性豊かな魅力で人・モノ・投資・情報を呼び込む**
 - ・人材について、関西経済の活性化を担う重要な要素として位置づけ
- **戦略の着実な推進に向けた仕組みの充実**
 - 事業年度毎の達成目標の評価に加え、進捗状況を把握するための参考指標を設定

1. 関西経済の現状・課題

- **人口の減少に伴う労働力不足**：生産年齢人口が大幅に減少する見通し。
労働力確保、生産性向上の取り組みが必要
- **好調なインバウンド**：GRPへの寄与度は約1%へ上昇。ビジネス目的のインバウンドの拡大を目指す
- **グローバル化の進展**：グローバルな企業間競争が激化。SDGsへの対応も必要となる
- **頻発する自然災害**：企業活動に影響を及ぼす自然災害が多発。災害に強い産業機能の実現へ

2. 関西経済の特徴とポテンシャル

- **特徴**：第3次産業が3/4を占め、バランスの取れた産業構造。対アジア向け輸出シェアが非常に高い
- **ポテンシャル**：多種多様な産業集積に加え、先端産業や大学、科学技術振興の拠点が立地
- **関西の広域的取組**：関西広域連合や経済団体が相互に連携を図りながら事業を展開
- **万博開催のインパクト**：万博開催を契機としたビジネスチャンスの拡大や新たなイノベーション創出の可能性

3. これまでの主な取り組み・成果

戦略1：世界の成長産業をリードするイノベーション創出環境・機能の強化

- ・関西広域連合として「メディカル ジャパン」を誘致し、ブース出展や大学等の研究成果と企業のマッチングのためのセミナー等を実施。関西の強みであるライフサイエンス分野のPRとビジネスの場の創出

戦略2：高付加価値化による中堅・中小企業等の国際競争力の強化

- ・工業系公設試験研究機関の機器利用料金について域内企業利用時の割増料金を解消
- ・各機関の保有機器・依頼試験の検索機能や情報発信機能を有する「関西ラボねっと」を共同運用
⇒企業の技術面での成長を広域的に支援
- ・企業を支援する機関（PMDA-WEST、航空産業非破壊検査トレーニングセンター など）の設置

戦略3：「関西ブランド」の確立による地域経済の戦略的活性化

- ・国内外でのプロモーション活動により、関西への関心、認知度が一定向上

戦略4：企業の競争力を支える高度人材の確保・育成

- ・目指すべき高度産業人材像の提示、インターンシップの好事例を集約・発信
⇒インターンシップ実施企業の増加

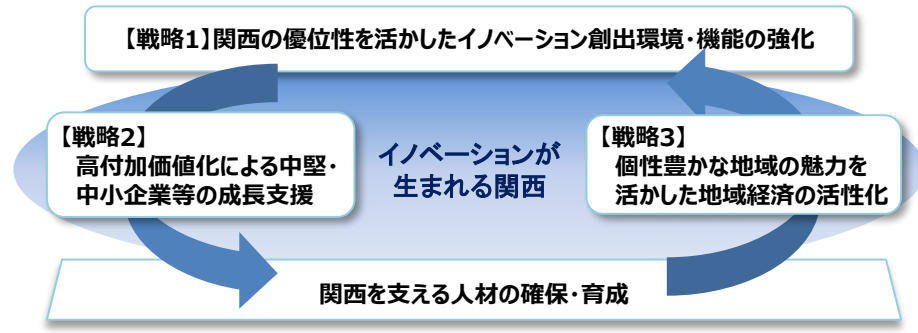
4. 関西が目指す将来像

世界の中で輝き、日本の未来を牽引する関西

多様な人々が活躍・共生できる関西

【目標値】2040年の関西（広域経済圏）の
経済・産業の国内シェア25%、GRP約1.8倍（2010年度比）の約180兆円

5. 広域課題に対応する新たな「関西経済活性化戦略」



6. ビジョンの実現に向けて

- **戦略の具体化**
 - ・関係機関との適切な役割分担と連携、年度毎の事業検証、参考指標による進捗管理
 - ・社会情勢等の変化に応じた柔軟な戦略の見直し
- **推進体制**
 - ・担当府県市による事業実施、関係機関との連携による事業推進
- **関西広域連合と構成府県市の役割**
 - ・関西が一体となって大きな成果を得ることを追求